

ブラックスワン食糧保障のお申込みはこちら

## ブラック・スワン食糧保障

ブラックスワン食糧保障メールマガジン 2022年7月配信号

### 「安倍前首相のご冥福を謹んでお祈りします」

また気象庁は‘梅雨明け宣言’をミスったのではないのでしょうか!!!  
まだまだ鬱陶しい日々が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

安倍前首相の悲報から一週間が経ちましたが、トランプ大統領を初めとする各国要人からのおびたしい数の弔辞、しかもエリザベス女王からのものは日本の政治家では初めての様です。またブラジルのボルソナーロ大統領が三日間喪に服すと発表し、インドも全土で喪に服すと発表。経済面では???というものもありましたが、外交面や安全保障戦略では抜群の功績を残したのが安倍元首相です。

まず安倍前首相の最大の功績は、就任前のトランプ大統領の下に飛んでいき、トランプタワーにおいて対中脅威論をブリーフィングしたことです。  
このことにより、トランプ大統領が対中関税の実施など大きく対中強硬政策を取る様になりました。就任前の次期大統領に現大統領を飛び越えてブリーフィングするなどという事は日本外交史上前代未聞のことで、オバマ大統領は不快感を露わにしました。  
しかしこの英断が、ここ10年の日米豪印のクワッド構想や自由で開かれたインド太平洋戦略等の中国封じ込め政策に大きく貢献し、今年はどうとうNATOが仮想敵国に中国を入れるという大転換を果たすことになりました。

またインドのモディ首相の信頼が厚いのは、アメリカとインドの陰悪なムードを解消するのに努力したからですが、この為にトランプ大統領に「インドを冷遇すると、中国やロシアの側に行ってしまう」と言って、「善処すべきだ」と説いたことが大きいのです。

またトランプ大統領が就任し外交デビューする際には、暴れん坊のトランプ大統領とどの様に接してよいか困惑していたEU各国の首脳たちとの橋渡し役を買って出るなど大きく世界協調に貢献しました。

安倍首相の退任後はしばらく「安倍ロス」という言葉が出るほど各国首相が困ったと言われています。  
この様に日本主導の外交戦略で、アメリカ大統領を引き込んで世界展開させるなどという大技は日本の外交史上特筆すべきことです。

実は私も30年ほど前に、安倍元首相と食事を共にさせて頂いたことがございます。

20代より師事させて頂いた藤井巖喜先生より、「草間君、あと半年もするとアメリカはブッシュ政権になる。その際の主要な三閣僚に順番に来てもらってミーティングするから来てみない？」とお誘いがありました。  
「ホンマかいな？」と思っていたのですが、本当にリチャード・アーミテージ氏、ロバート・ゼーリック氏、ローレンス・リンゼー氏が相次いで事前に来日し、私はリンゼー氏が来られた時にしか行かなかったのですが、隣に安倍元首相が座られました。そのさらに隣には後見人として富士通の会長(確か、)が座られていました。私の第一印象は「線が細い人やな、こんなお坊ちゃんで大丈夫かいな」といった感じでしたが、その後安倍氏が急速に力をつけ、対北朝鮮強硬路線に転じ小泉首相と拉致被害者を連れ帰るなど目覚ましい活躍をしたことを振り返ると、財界や言論界の重鎮が「日本のニューリーダーは彼で行きますよ」というお披露目の席だったということなのでしょう。

因みにその会はリンゼー氏と藤井先生含めて6人しかおらず、安倍さんと富士通の会長(たぶん)が「ところでこの若造は誰やねん？」という目で見れていたことは言うまでもありません。

トランプ大統領やEUの代表であったメルケル首相の退任後は、徐々にこれまでの宥和路線が逆向きに巻き戻されつつあります。  
ロシアのウクライナ進行もその一つですが、このような輝かしい功績を残した人物であるからこそ、暗殺されたと考えることもできます。

ここで私が皆さんにお伝えしたいことは、‘首相暗殺’という事件も80年前後で起きる‘ブラック・スワン’の一つではないのかという事です。

1920年ごろから首相や政府高官の暗殺が相次いで起こり、我が国がそこからどんどん戦争の方向に向かって奈落の底に転落していったという歴史を、今一度紐解き、注意し、備えるという事が大事なかもしれません。

ブラックスワン食糧保障 草間 弘人

正しく表示されない場合は[こちら](#)

今後も引き続きメールの受信を希望される方は [こちらをクリック](#) してください。今後メールの受信をご希望されない方は、こちらから[配信停止手続きが行えます](#)。

大阪市港区 弁天1-2-1

[配信停止](#)

